

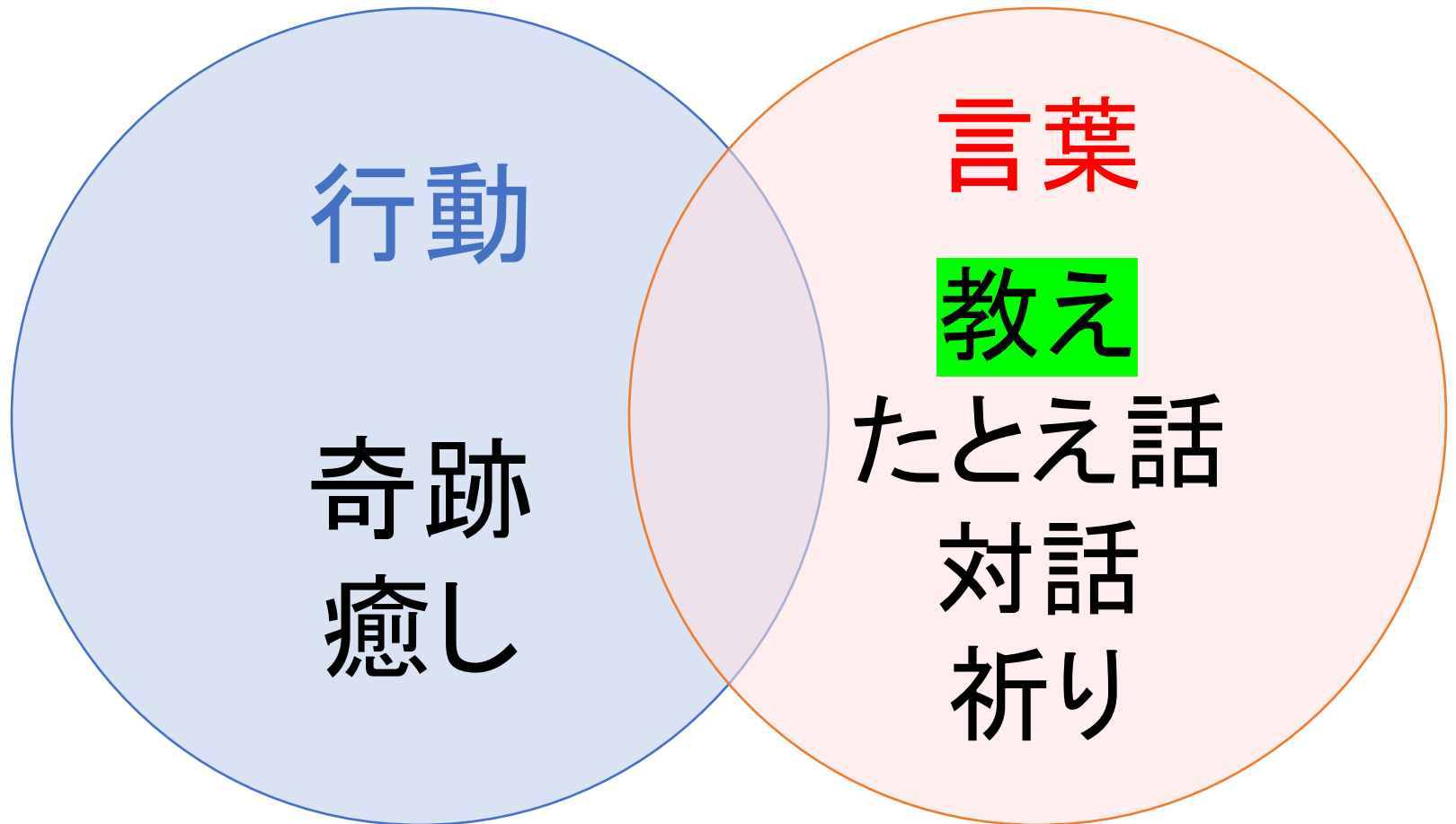
完全になりなさい

～30分で分かる山上の垂訓～

シリーズ～新イエス～

2025/6/1

イエスを「語る」



「山上の垂訓」

• イエスの「教え」の集大成

- マタイ福音書5～7章
- マタイによってまとめられたイエスの教え
- 「神の国」のおきて

• アウトライン

- プロローグ(序文)
- 新しい律法
 - 「しかし、私は言うておく」
- 新しい規範
 - 「隠れておられる天の父」
- エピローグ(結語)

プロローグ(序文)

- 山に登り、弟子たちが近くに寄ってきた
 - モーセが律法を授けた状況に似ている
 - 基本的にはイエスの弟子たちに向けた教え
- 「幸いな教え」
 - 神の国の「**憲法**」のようなもの
 - 人の国(この世)とは**幸・不幸が逆**である
 - 「心の貧しい人々」「悲しむ人々」「柔和な人々」「憐み深い人々」
「心の清い人々」「義のために迫害される人々」が幸い
- 「地の塩・世の光」
 - この世に働きかけなさい(秘密結社になるな！)
 - 天の父があがめられるために

新しい律法

- 律法を完成するために

- 「わたしが来たのは律法や預言者を…完成するためである」
- 律法学者の義にまさらなければならない

- 古い律法に対する新しい律法

- 「あなたがたも聞いているとおり」『古い律法』
- 「しかし、わたしは言うておく」『新しい律法』

- 文字の律法よりもはるかに優れた道

- 文字通り守っていれば良いのではない
- 律法を精神をより高い次元で実現する

新しい律法

古い律法	新しい律法
『殺すな。人を殺した者は裁きを受ける』	兄弟に腹を立てる者はだれでも裁きを受ける
『姦淫するな』	みだらな思いで他人の妻を見る者はだれでも、既に心の中でその女を犯したのである
『妻を離縁する者は、離縁状を渡せ』	不法な結婚でもないのに妻を離縁する者はだれでも、その女に姦通の罪を犯させることになる
『偽りの誓いを立てるな。主に対して誓ったことは、必ず果たせ』	一切誓いを立ててはならない。 あなたがたは、『然り、然り』『否、否』と言いなさい。
『目には目を、歯には歯を』	だれかがあなたの右の頬を打つなら、左の頬をも向けなさい。
『隣人を愛し、敵を憎め』	敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。

新しい律法

古い律法	新しい律法
『殺すな。人を殺した者は裁きを受ける』	兄弟に腹を立てる者はだれでも裁きを受ける
『姦淫するな』	みだらな思いで他人の妻を見る者はだれでも、既に心の中でその女を犯すことになる
『妻を離縁する者はせ』	妻を愛していないのに妻を離縁する者も、その女に姦通することになる
『偽りの誓いを立てる者は、必ず罰を受ける。誓ったことは、必ず守る』	誓う必要はない。『然り、然り』『否、否』と言いなさい。
『目には目を、歯には歯を』	だれかがあなたの右の頬を打つなら、左の頬をも向けなさい。
『隣人を愛し、敵を憎め』	敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。

律法学者の義
にまざる義

新しい規範(信仰行動)

- 「偽善者」(律法学者)のようにではなく
 - 「偽善者」たちは人に見てもらおうと、「施し」「祈り」「断食」している
- 「隠れたところにおられるあなたの父」
 - 人ではなく天の父に見ていただきたいなさい。
- より高い(天の父による)報いを求めて
 - 施し: 右手のすることを左手に知らせない
 - 祈り: 奥まった部屋で戸を閉めて祈る
 - 断食: 人に気づかれないよう、頭に油をつけ、顔を洗って

新しい規範(この世の暮らし)

- 富について

- 富は天に積みなさい
- 「神と富とに仕えることはできない。」

- この世のことで思い悩むな

- 何を食べよう、何を着ようかと思い悩むな
- 天の父は野の草さえ装ってくださる

- 裁くな

- 「まず自分の目から丸太を取り除け！ 」

- 求め続けなさい

- 「あなたがたの天の父は、求める者に良い物をくださるにちがいない」

エピソード（結語）

- 「狭い門から入りなさい」
 - 神の国の掟を守りたければ、自分にとって困難な方を選びなさい
- 偽預言者に気をつけなさい
 - 実を結ばなければ偽預言者である
- 誰でも天の国に入れるわけではない
 - 「『主よ、主よ』と言う者が皆、天の国に入るわけではない。…天の父の御心を行う者だけが」
- 家と土台のたとえ
 - これらの教えを実行しているかどうかは試練が証明する

山上の垂訓のテーマ

A プロローグ

わたしが来たのは律法や預言者を
廃止するためだ、と思ってはならない。
廃止するためではなく、完成す
るためである。

B 新しい律法

C テーマ

あなたがたの天の父
が完全であられるよう
に、あなたがたも完全
な者となりなさい

B' 新しい規範

A' エピローグ

人にしてもらいたいと思うことは
何でも、あなたがたも人にしなさい。
これこそ律法と預言者である。

山上の垂訓を語ったイエスとは

- **そもそも律法の与え主であった**
 - 律法の本来の目的を知っていたからこそ、その精神の大切さを語ることができた
 - 「完成するために」来た、と断言できた
- **語るだけではなく自らすべてを守り、行った**
 - 生まれた時から死ぬまで＞ **完全な人**であった
 - 母マリアはその証人として弟子に加わった
- **天の父のことをよく知っていた**
 - 天の父が人間に何を望み、どのようにされるか
 - **天の父のもとから来られた方だからこそ語れた**